



日本科学者会議 (JSA) 滋賀支部  
**NEWS LETTER**

2023年6月8日発行 第92号

事務局長 小島 彬

TEL/FAX 077-589-3724

Email : akrkojima@ybb.ne.jp

## 「企業のESGと持続可能性をめざす地域貢献活動」～ソフトクリーム工場の取り組み～

村上仁宏 (日世株式会社)

日世株式会社は日本に初めてソフトクリームを紹介したソフトクリームの総合メーカーで、滋賀県多賀町にあるびわ湖工場では液体原料のソフトクリームミックスを製造しています。

地域行政はその地域の社会問題の解決に向け様々な計画を打ち出していますが、当工場でも企業の社会的責任を果たしつつ企業成長していくために、新しくESG (環境 (E)・社会 (S)・ガバナンス (G)) を幹とした持続可能な達成モデルを構築し、行動しています

具体的には身近に起きている問題を解決すべく、ソフトクリーム製造工程で発生する排水残渣を肥料化し、近隣農園団体へ提供、地域との価値共創と資源循環することを工場の新しいテーマとして、取り組みを開始しました。これまでは、排水処理から出た残渣は産業廃棄物処理業者に処分を委託して、それを燃焼処理していましたが、排水から肥料化されるまでの工程は工場内で完結しています。この取組を当工場が自ら行うことで、企業は産業廃棄物排出削減と環境負荷低減 (二酸化炭素排出量低減) を実現し、農業者の方はそれを肥料として活用でき、地域の人々にとっても環境にやさしい生活が促進され、地域との価値を共創することで企業、農業者、地域の人々の3者による「コンポストで三方よし」の活動が実現しております。また、海外原料に依存している化学肥料の低減や堆肥等の国内資源の活用等の取組を行う農業者に対し、工場の残渣物から造られた肥料を地域へ提供することで、肥料コスト上昇による農業経営への影響を緩和する支援が来ています。

次に、廃棄物を再利用資源に転換するだけでなく、循環型サイクルにすることを目標に、「地域の中で協力の輪を広げ、食品リサイクルの循環を創る！」ことを掲げています。肥料化の取組を進めていく中で、残

渣を利活用するだけでなく、自らを「SCE (Social Corporation Engine)」と名づけ、地域のプレーヤーであり地域内循環を推進する農園団体や各 NPO 法人、大学、地域環境保護団体等をつなげ機能させる役割を果たすように、循環農業のサイクルを回していくことを目標としました。2022年には、滋賀大学のプロジェクト型インターンシップを通じて、学生さんが工場で作った肥料を活用している農家で出る規格外野菜に着目して、小松菜ソフトクリームを開発し、地元のスーパーで販売をしました。このような循環サイクルを、小さな地域で持続可能なスキームとしてモデル化し、それを全国へ広め好循環させることも広めていきたいと考えています。

廃棄するソフトクリームミックスには、堆肥化する以外に豚の飼料に活用頂いておりますが、製造工程で表示印刷がかすれたり、包装がつぶれたりした製品は不良品扱いとなり、本当は食することができるのに出荷されず廃棄する場合があります。これをフードロスと捉え、中身の品質を保証し、地域の方々に食べてもらえないかと考えました。そうした中、子供食堂の実態を知るようになり、孤独や孤立または社会的な排除を感じる子ども達に笑顔でこども食堂に来てもらい、デザートにソフトクリームを食べてもらう試みを実施しています。また、ソフトクリームを提供するだけでなく、こども達へ環境に関する体験や環境学習を行うことで、地域のイベントや出前授業に参画し、この活動を通じて、未来を託す子ども達一人ひとりが主体となる学習機会を提供していきたいと考えています。

さらに自社だけにとどまらず、異業種、異分野の技術やアイデアや知識を組み合わせることで、工場からの廃棄物の削減となる新しいリサイクルプロセスに繋げる役割を創出しています。例えば製造工程中に発生する糖類の原料ロス、作物のエネルギー源としての機能し、農作物の成長促進させることや土壌中の微生物の活動を促進し、土壌の肥沃度を高める土壌の改良としての農業資材として活用しております。廃棄油

を回収し、燃料として使用できるバイオ燃料にリサイクルにする取り組みに着手しており、工場の産業廃棄物低減やCO2排出量低減を実現すると同時に持続可能なエネルギー源として、廃油を活用することで地球環境保全にも役に立っています。

## 農薬公害に関するトークセッション「沈黙の春 61年後の現実」のご案内

7月8日(土) 13:30-15:45、高山市民文化会館

5月21日の支部大会で個人分会の活動企画として紹介しましたが、1962年にレイチェル・カーソンが彼女の著書『沈黙の春』を出版し、農薬の残留性や生物濃縮をもたらす生態系への影響を公にして社会的に大きな影響を与えました。昨年10月8日に愛知県稲沢市でその後60年経過して現実を見るという企画が行われました。岐阜県高山市でのトークセッションはそれに引き続くもので、可能な会員は現地での催しに参加して下さい。またYouTubeでのライブ配信がされ自宅での視聴が可能ですので是非ご参加下さい。

<https://www.youtube.com/watch?v=OUf2y3M5Spq>



## 23年度(第59回)支部定期大会報告

5月21日開催

大会議案は文字の若干の修正のみで可決され、支部の役員は次のようになりました。

代表幹事：畑 明郎、事務局長：小島 彬、事務局次長：柳澤淳一、佐々木茂安、会計：野口 宏

また全国大会代議員は5月27日が小島彬、6月11日が佐々木茂安に決まりました。

全国大会議案の討議では情勢の部分に平和構想が抜けていることが指摘され、支部の大会議案に書かれて

いる「2022年12月15日に憲法や国際政治の専門家らで構成される「平和構想提言会議」が、「戦争ではなく平和の準備を—抑止力—で戦争は防げない」と題する提言を発表し、政府の「国家安全保障戦略」など安保関連3文書に対置する「平和構想」を提起して、軍事力中心主義や「抑止力」至上主義から脱却すべきだと指摘している。さらに、日本国憲法の基本原則に立ち返るよう求め、東南アジア諸国連合(ASEAN)などの枠組みが果たす役割の重要性を強調して、「攻撃的兵器の不保持」の原則を明確化・厳格化、辺野古新基地建設と南西諸島への自衛隊基地建設の中止、核兵器禁止条約への署名・批准などを示していることは注目に値する。」を補足提案することが決まりました。(なお全国大会初日に出したこの補足提案がそのまま承認されました。)

支部の大会決定は事務局長メールでお知らせしましたが、滋賀支部のホームページの資料に掲載されています。<https://jsashiga.jimdofree.com/> なおこの資料欄はパスワードが必要です。(パスワードは事務局長メールで随時お知らせしています。)

## 事務局からのお願い

### ○支部のホームページの新企画

支部大会の方針により、支部のホームページの新企画として院生・学生向けのコーナーを設けることになりました。支部会員の皆さんやその他の方々から投稿をお願いし、「研究テーマの設定」、「研究不正に巻き込まれないために」、「科学論の紹介」、「私の大学論」、「大学生活を振り返って」、「日本と世界の高等教育比較」、「社会科学の古典的名著学習の勧め」 「皆さんに薦めたい一冊」など、大学の講義とは違う視点の内容を掲載します。それらを院生や学生が読んで有益であると実感すれば、自らSNSなどで拡散しあい、その結果多くの院生や学生がJSAの存在を知って活動に共感を持ち、若い会員の入会に繋がる可能性が生じることを期待しています。

### ○23年度会費の振込状況

先月に23年度会費の振込をお願いしました。既に33名の方が振り込んで頂きお礼を申し上げます。なお、まだの方も早めに振り込んで頂くようお願いいたします。